

平成19年度

取扱注意

授業改善推進プラン【小学校】

- ①平成19年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画
- ②平成19年度第2学年・第3学年・第4学年・第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析
- ③現第6学年 平成18年度第5学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会)結果の内容別・観点別の分析
- ④指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科

東京都北区立滝野川第六小学校

本校における各教科の実態(現状と課題)	
国語	○関心・意欲・態度面は良好で、かつ言語能力の高さに比較し、読解力や文章表現力が十分に育まれていない。 ○目的や意図、相手に応じた言語を駆使して思考する学習場面を十分確保し、読解力や文章表現力を育む指導の充実。
算数	○興味・関心・意欲・態度も良好である。計算力の高さに比べ、論理的思考力が弱い。 ○学習ルールの確立や高学年での個人差の拡大に対応した個別指導、また発展的学習のあり方が課題である。
社会	○社会的事象への興味・関心は高く、知識・理解も概ね良好であるが、地図や資料の活用能力が十分ではない。 ○資料から事実を読み取り、課題を見つけ追究する学習を通して思考力や資料活用能力を高める。
理科	○具体物や実験・観察等体験を通して学習したことは定着しているが、見通しをもって課題を解決する能力が不十分。 ○根拠を明確にした予想、実験結果への考察、次の自然事象への課題発見・解決への学習過程を定着させる。

本校の教育目標
○かんがえる子 つよい子 やさしい子
○認め合い、学び合う楽しさとやりとげた喜びのある学校

本校が児童に育成したい力
○「はやね・はやおき・朝ごはん」をキャッチフレーズとして、基本的な学習習慣・生活習慣を身に付けさせる。 ○「話す力」、「聞く力」、「コミュニケーション能力」を高めることを校内研究のねらいとし、日常の全教育活動を通して育成する。 ○「読む力」、「聞く力」、「計算する力」の育成を重視した年間の学習活動の取り組みを通して、基礎、基本の定着力を高める。 ○「計算式を導き出す力」、「結果を関連付けたり、規則性を導き出したりする力」(考える力)、「課題を見つけ追究し、解決していく力」(課題解決力)等を各教科の学習を通して育成する。

学力向上にかかわる経営方針
○基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、学ぶ喜び、成就感を味わわせ、意欲的に学び続ける児童を育てる。 ○取り組む内容を明確にしたり、目標を数値化したりすることで「見える教育」を推進する。

校内における学力向上推進体制
○校内組織として企画委員会を学力向上委員会とし、本校児童の学力向上へ向けた課題協議・解決への企画・立案の場とする。 ○二学期制の特色である十分に確保された授業時数の中で、余裕のある学習指導を展開し、学力向上を図る。

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○毎朝10分間、始業前に「朝の読書タイム」を設定する。(モジュール) ○毎週火曜と金曜日各15分程度「漢字・計算タイム」を設定し、金曜日には定着度を測る。 ○夏季休業中に15日の学習教室を設定し、学びの継続を図る。また、漢字検定を実施する。	○個に応じた指導により個々の学力伸ばす必要がある。 そのため、少人数指導を算数で展開し、2年生より実施する。習熟度別授業を工夫し、「計算力」や「式を導き出す力」、「論理的思考力」また「問題解決能力」を育成する。	○「自分の考えをもち、伝え合い、学び合う子ども」を主題にコミュニケーション能力を高める研究を進める。全教員が計画的に研究授業を行い、授業力向上に努める。 ○道徳授業地区公開講座や特別支援教育校内委員会での協議や講義研修を通して、教職員の共通理解を深め、共通実践を図る。	○低・中・高での交流学習を重視し、児童相互の評価力を高める工夫をする。 ○毎月、基本的な生活習慣の自己評価カードを記入させることで学習や生活の習慣の改善を図るとともに、自己評価力を育てる。 ○二学期制を生かし、個々の学習到達度やよさを多面的にとらえ、指導と評価の一体化を図る。	○夏季休業中の個人面談を通して、個に応じた学習課題、学習や生活習慣の改善等について保護者との共通理解を図る。 ○学校公開日や学校図書館ボランティア等の活動を通して、保護者・地域の方々の参加型授業を展開する。 ○挨拶や敬語等の正しい言葉遣いができるよう保護者と協力し実践する。

平成19年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

北区立滝野川第六小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「漢字の読み書き」や「話を聞き取る」はよいが、「説明文を読み取る」「文章を書く」が区の平均を下回っている。「文章を書く」が苦手なのは、普段の日記指導においても自分の気持ちを書き表せない現状と重なる。	「言語」についての定着率はよい結果を残している。しかし、特に「書くこと」に関しては期待正答率を下回っている。学校であった楽しかった出来事とその中身がわかるように書く問題であったが、中身が詳しく書けていない。	「書くこと」が苦手である児童が多いので、文を書く時には、出来事とその時の気持ちや理由を書き表せるように指導を重ねたい。〈いつ、どこで、誰と、何を、どう思ったか〉など、書くポイントをおさえる必要がある。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
校内平均正答率が95.6と非常に高いことから、1年生の学習内容はよく理解されている。「数の大きさ比べ」「たし算」「長さ比べ」は全員が正答している。「100までの数」が若干、苦手な児童がいる。	「数量や図形」の分野が苦手な児童もいるが、すべての観点において非常に高い正答率であった。算数への関心、意欲も高く、普段の算数でも積極的に発言し、質問している様子と重なる。	全体として、算数が好きな児童が多い。くり上がり、くり下がりなどの計算は理解されているが、「100までの数」においては、数直線上の数が規則性をもって大きくなっていくことがつかめていない児童がいる。

平成19年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
文章を書く能力が非常に高く、ほとんどの子が自分の考えを文章で表すことができた。また、2年生までの漢字の読みについては、よく理解できていた。しかし、物語の読み取りや、話の内容の聞き取りについては、課題が残った。	国語への関心・意欲・態度では高い数値を示し、書く能力に関しては非常に高い能力があることがわかった。また、言語についての知識・理解・技能についても、ほとんどの子がよく理解できていることがわかった。しかし、読む能力については、課題が残った。	書く能力についてはしっかりと力がついており、言語についての知識理解もおおむね満足できると考えられるが、話の要点を聞き取ることや、物語や説明文の読解力については、大きな課題が残った。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
どの単位についてもよく理解できている。中でも、たし算の筆算やかけ算九九については、高い理解が見られた。しかし、時計の読み取りや長さのところでは、理解が不十分なところもあった。	どの観点についても高い正答率を示しており、よく理解できていることがわかる。しかし、観点としては、算数への関心・意欲・態度や数量や図形についての知識・理解で比較的正答率が低いことがわかった。	全体的にどの分野についてもよく理解できており、中でも、基本的な計算や、図形についての理解はしっかりしていることがわかった。しかし、時計の読み取りや長さの単元の基本の理解が不十分であることがわかった。

平成19年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>説明文の内容を読み取ることと漢字の読み書きは、比較的 理解できていたが、物語文の読み取りや決められたテーマについて自分の考えを、理由をあげながら書く力が十分に身につけていない。また、漢字を書く力や、国語辞典と反対の言葉を考える力に課題が残る。</p>	<p>特に関心・意欲・態度と、書く能力が低いのがめだつ。話す・聞く能力については、少しずつ改善されてきている。説明文の内容を読み取る力はあるが、物語文の内容を読み取る力については課題が残る。あるテーマにそって自分の考えを書く力については特に改善が必要</p>	<p>関心・意欲・態度をはじめ全体的に課題が残った。特に書く力については、時間をかければ書くことができるが、決められた時間内にまとめることがなかなかできなかったり、苦手意識が強かったり個人差が大きい。漢字については読むことはできるが、正しく書くことと語彙力を豊かにすることに課題が残る。</p>
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>学校のまわりの様子や買い物調べ、いろいろな店や店で働く人たちについては、比較的 理解できている。まちの地図の見方やまちの様子については正答率が低く、課題が残る。消防署の仕事については、見学前ということもあって理解が不十分だった。</p>	<p>社会的な事象への関心・意欲・態度については、比較的 高い正答率だった。が、それについての知識・理解は十分といえず、課題が残る。観察・資料活用の技能・表現においては資料から読み取ったことをもとに考える力に課題が残る。</p>	<p>社会的な事象について関心・意欲・態度はよいのだが、地図や資料から読み取る力や読み取ったことをもとに考える力に課題が残る。資料からどんなことが読み取れるかの話し合いをさらに活発にしていこうようにし、読み取ったことをもとに考える力を全体的に高めていきたい。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>かけ算や、わり算、いろいろな形、箱の形、ぼうグラフと表については、全体的によく理解できている。かさ・重さ・長さについては理解が不十分な部分があり、課題が残る。特にいろいろな考え方で解く問題について</p>	<p>算数への関心・意欲・態度をはじめ、数学的な考え方、数量や図形についての表現・処理、また数量や図形についての知識・理解とも全体的にほぼ理解できている。が、知識・理解の面で個人差が大きく、個別指導のあり</p>	<p>全体的に、かけ算やわり算、たし算、ひき算などの基本的な問題はできていたが、いろいろな考え方で解く問題や、かさ・重さ・長さに関する理解が不十分な児童がいた。特に量と測定の領域に課題が残る。個別指導の進め方についても課題が残る。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>ホウセンカの成長の様子についての理解が不十分だったことと、昆虫のからだのつくり、太陽の動きやかげのできかたについての理解が不十分だった。実験や観察は大好きだという児童は多いのだが、知識として定着していないことが課題として残る。</p>	<p>全体的に日常の授業では積極的意欲的に実験や観察に取り組む児童が多いのだが、その成果が結果として理解力に結びつかず課題が残る。特に、観察・実験の技能・表現と自然事象への関心・意欲・態度の正答率が低いことに課題が残る。</p>	<p>自然事象についての関心・意欲・態度が理解力を高めることに結びついていないことが大きな課題である。実験に取り組む際課題を明確にし、予想をたて、実験し、結果から分かったことをまとめるようにする。観察の際、分かったことを自分の言葉でまとめていく。全体で話し合い、理解を深めていくようにする。</p>

平成19年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
全体的に課題が多いが、特に作文に関しては、白紙で提出した児童が多く、個人差が大きい。また、漢字の書き取りや、物語の内容を読み取る力、話の内容を聞き取る力などは、区の平均と比べても差が大きく、本学級における課題である。	区の平均と比較して「書くこと」については、20%近く低い結果となっている。これは白紙で提出した児童が多くいたことも一因と考えられる。その他の観点についても区の平均を下回っており、国語力の育成が本学級の課題である。	いずれの項目も、全体として区の平均に届いていない結果となった。国語に対する関心・意欲・態度についても個人差が大きく、正答率との関連も深いと考えられる。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
安全なくらし、ごみの始末と利用、くらしをささえる水、昔のくらしの様子、伝統工業については比較的良好理解できていたが、地形図の見方については区の平均を下回っており、課題が残った。	社会的事象への関心・意欲・態度や、知識・理解については、区の平均を上回っているものの、社会的な思考・判断や、観察・資料活用 of 技能・表現については、区の平均よりも若干低い結果となっている。	社会に関する関心・意欲・態度は比較的高いという結果であったが、地形図の見方の項目における正答率が他の項目に比べて低かったように、観察・資料活用 of 技能・表現の面については課題が残った。
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
よくできていた項目と、そうでない項目とがはっきりしている。全体としてよくできていた項目は、億と兆、わり算、小数、円と三角形である。逆に区の平均を下回っていた項目は、概数の表し方、分数、面積、折れ線グラフと表、計算のきまりである。	算数への関心・意欲・態度はそれほど高くないが、数量や図形についての表現・処理は区の平均を上回っていた。一方、数学的な考え方や、数量や図形についての知識・理解については、区の平均を若干ではあるが下回っているという結果であった。	図形に関する領域については、全般的に区の平均を上回っていたが、量と測定や、数量関係に関する領域では、区の平均を若干ではあるが下回っているという結果であった。項目により、理解の定着度に差が出ていることが分かった。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
よくできていた項目と、そうでない項目との差が大きい。全体としてよくできていた項目は、1年間の動物の様子、光電池、温度による金属のかさの変化などである。一方、月と星、空気や水の性質、水のあたたまり方などについては区の平均を下回っており、課題が残った。	自然事象への関心・意欲・態度については概ね高いという結果であったが、観察・実験の技能・表現や、自然事象についての知識・理解については、区の平均を下回っていた。	生物とその環境に関する項目については平均するとよくできていた。一方で、物質とエネルギーや、地球と宇宙に関する項目については、全体として理解の定着が十分に図れていないという結果であった。

現 第6学年 平成18年度 第5学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会) 結果の内容別・観点別の分析
 北区立滝野川第六小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「話すこと・聞くこと」「読むこと」の正答率が高かった。中でも「読むこと」については、非常に高い正答率であった。読書に関心が高く、集中して本を読む習慣が身に付いていることが関係していると考えられる。言語事項については今後も努力が必要である。	「関心・意欲・態度」は100ポイントで、すべての児童が、国語に関して強い関心・意欲をもっていることが分かる。しかし、「書く能力」や「言語についての知識・理解・技能」は正答率が低く、課題が残った。	国語に関して、関心・意欲は高い。しかし、「言語事項」については、内容別結果で見ても、観点別結果で見ても正答率が低く、読む力、書く力をさらに伸ばす中で言語事項の力を着実につけさせていくことが今後の課題である。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「我が国の食料生産」と「我が国の工業生産」については、まずまずの正答率である。学習したことをほぼ理解できているとあってよい。しかし、「地域学習」については、多くの課題が残った。特に、地図の読み取りや地図記号に関しては復習する必要がある。	「関心・意欲・態度」は非常に高い解答率であった。「資料活用・技能・表現」については課題が残った。特に、いくつかの資料を分析して読み取ること、また、それらを活用することの力が不十分である。	5年生で学習した「我が国の食料生産」「我が国の工業生産」については、ほぼ理解できていた。しかし、3・4年生で学習した「地域学習」や地図学習に関しては多くの課題が残った。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「数と計算」「量と測定」においては高い理解が見られたが、「図形」「数量関係」についてはやや正答率が低かった。中でも、計算のきまりを使う問題や図形の問題の理解が浅く、課題が残った。また、割合の学習内容が十分に理解されていなかった。	「関心・意欲・態度」については非常に高い解答率であった。「表現・処理」「知識・理解」についてはほぼ定着しているが、「数学的な考え方」に関しては、正答率が低く、多くの課題が残った。	「関心・意欲・態度」の解答率が高いことから、児童が算数に対し、意欲的なことがわかる。また、「数と計算」や「技能・表現」の正答率が高く、計算力はあることがわかる。反面、「数量関係」「数学的な考え方」が低く、考える力をつけていく必要がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「生物とその環境」、「地球と宇宙」に関しては、ほぼ理解できているとあってよい。しかし、「物質とエネルギー」の正答率が低い。特に、3・4年で学習した、電流や磁石の問題の正答率が低いことから、既習学習の定着が図られていないことがわかる。	「関心・意欲・態度」については非常に高い解答率を示し、普段から実験や観察にも意欲的に取り組んでいる成果が反映されていると考えられる。「科学的な思考」については正答率が低く、課題が残った。	内容別結果から「物質とエネルギー」の理解が十分でなく、観点別結果の「科学的な思考」が低いことから、実験や観察に取り組む際の課題発見、解決、考察など「科学的な思考」をつかう時間をしっかりとる必要がある。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

学年	学習状況及び指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	ひらがなの学習については、正しい書き順に気を付けて空中書きをし、ドリルやプリントを活用して繰り返し練習し、定着を図ったが、まだ十分といえない児童もいる。また、鉛筆を正しく持てない児童もいる。今後も一斉指導と個別指導で定着を図っていく必要がある。	朝の会での、日直のスピーチやお知らせコーナーで、全体に話す活動を継続していく。また、音読集を活用し、音読の練習も継続していく。授業の中に「聞く、話す、読む、書く」などの活動を取り入れた学習をし、基礎的な力が身につくように工夫していく。	・音読発表会を行い、発表の場を通して異学年との交流を図る。学習カードを活用し、互いに認め合い、学び合う楽しさと達成感を実感できるようにする。 ・宿題に日記を取り入れ、書くことで表現する学習も取り入れていく。
2年	毎日、家庭学習として音読や日記、漢字指導を継続的に取り組んでいる。漢字に関しては、読み、書きだけでなく、筆順も指導し、定着が感じられる。書く力には個人差があり、もう一度、書くポイントをおさえる必要を感じる。	日記を毎日継続して書かせているが、「～して楽しかった」で終わらせてしまう児童もいる。文を書く前に、書きたい内容やその時の気持ちを聞き取り、言葉を引き出す支援をし、文を長く書くことに慣れさせていく。	日常の出来事だけでなく、学校行事の後や読書感想文など、いろいろな内容や形態で文を書く指導を重ねる。読書感想文は場面やその時自分が感じたことをメモさせ、それをもとに書かせる。
3年	話の要点を押さえて「聞く」ことや、物語や説明文など文章の読み取りに課題が残る。また、漢字の読みについてはおおむね満足できるが、漢字の書きについては、まだ不十分である。	話の要点を聞き取れたか、普段からチェックするような授業を行う。また、主人公の気持ちの読み取りやお話の構成などに着目して、読解力を伸ばせるようにたくさんのお話の読みに取り組む。さらに、1年生からの漢字の学習の復習を行い、定着を図る。	日直のスピーチの聞き取りをゲーム感覚で行うようにする。また、宿題で読解力を伸ばせるようなプリントを行い、普段から読解に関心をもてるようにする。また、さらに毎週水曜日の漢字テストや朝自習の時間、毎日の宿題を通して、漢字の読み書きの定着を図る。
4年	本を読むのが好きな児童は多いのだが、国語への関心・意欲・態度を高めることに結びついていない。日々の学習活動の中で自分の考えをまとめ、みんなの前で発表したり、文章で書き表したりする場を多く設定するようにし、読み取る力、表現力、書く力を育てていく。	日常のさまざまな場面を通して国語への興味・関心・意欲を高め、語彙を豊かにしていく。聞き方のポイントをおさえ、内容を理解する力を育てる。漢字を書いたり、自分の考えを文章に書いたりする場を多く設定し、書く力を育てて、より豊かな言語活動を行っていく。	毎日の課題にしている漢字練習を、継続していくとともに復習テストを毎週実施して、定着を図る。読書活動を通して、心に残った本を紹介する場をさらに多くしていく。日直のスピーチ活動の内容をより充実させる。詩の朗読・音読練習を通して語彙をより豊かにしていく。
5年	全般的に課題が多いが、特に「書くこと」については個人差がとても大きく、苦手意識のある児童も多い。また、漢字の書き取りについても、前学年までに学習したものを含めて理解の定着が十分に図れていない。	漢字の書き取りについては、学級で新出漢字10題ずつミニテストを実施する。全員8割以上の定着を図る。また、授業では「～字以内に書きまとめる」という課題に継続して取り組み、書くことに少しずつ慣れさせていくようにする。	朝の会の音読が終わり次第、朝のスピーチにも取り組んでいく。発表メモを活用し「起承転結」を押さえた話し方を体験させる。また、スピーチの内容について質問をさせたり、要約させたりする場を設け、聞く力や書く力を育てていく。
6年	新出漢字については、意味調べだけでなく、短文作りを行い、漢字の定着と活用を図ってきたが、まだ充分ではなかった。また、既習の漢字についても繰り返し復習する必要がある。物語文の登場人物の心情や説明文の要旨の読み取りにさらに力を入れていく。	漢字については、今までの指導を継続するとともに、普段から漢字を使う習慣を身に付けさせ、ノート指導の充実を図る。文章の読み取りに関しては、繰り返し読み込むことで、読みを深められるようにする。また、文章構成を考えて書く活動を取り入れる必要がある。	毎朝、音読集より漢字の短文の5題ずつ読む時間をとり、語彙力を高めていく。また、毎週の漢字テストを引き続き実施し、定着の低かった漢字は宿題などの復習プリントを作成し、練習する。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

学年	学習状況及び指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	できるだけ具体物を使い、児童が興味・関心をもって取り組み、理解できるようにしたが、まだ十分理解できない児童もいる。文章問題では、問題を読み取ることが困難な児童もいた。たし算とひき算の答えを考える際、指を使って答えを出す児童もいた。	具体物を使った導入や、ゲームなどを取り入れたことが児童の興味・関心を高めるのに効果的なので、今後も継続していく。学習の理解に時間がかかる児童には個別に指導しながら定着を図る。問題や式の意味を把握しているか確認しながら進めていく。	毎週金曜日の計算タイムの時間を使って基礎的・基本的な内容の定着を図る。計算ドリルを活用し、理解を深める。学習前に計算タイムを作り、繰り返し計算に取り組む場を設定し、基礎を身につけさせる。グループ学習なども取り入れながら児童の意欲を高める工夫をしていく。
2年	・学習に積極的に取り組み、発表を進んで行うことができる児童が多い。 ・新しい学習内容や事象は、習熟するのに時間を要することがある。一人ひとりの理解を確認し授業を展開していく必要がある。	・習熟度別少人数学習を行うことにより、一人ひとりの学習の理解や習熟に応じた指導を行う。 ・具体物から、半具体物、そして、一般化するという学習をていねいに行うことで、筋道立てて考える力を伸ばすようにする。	・習熟度別基礎コースでは、形成的な評価を行い、授業時間以外でも、基礎基本の計算を練習させ習熟を図る。 ・習熟度別発展コースでは、学年にとらわれず、関連のある学習のプリントを用意し主体的に取り組ませる。
3年	・毎時間継続して九九の基礎計算に取り組んできたため、計算の能力が上がり、課題について考えたり、発表したりする時間を多くとれるようになってきた。 ・いろいろな考えの中からよりよい解決のしかたを見いだしていく学習を多く取り入れていく必要がある。	・習熟度別少人数学習を行うことにより、一人ひとりの学習の理解や習熟に応じた指導を行う。 ・式や言葉での説明、絵や、図など自分で表現しやすい方法で、まとめ発表させるようにする。 ・互いの考えの良いところを見つけさせるようにする。	・習熟度別基礎コースでは、基礎・基本の内容のプリントに取り組ませ、学習の定着を図る。 ・習熟度別発展コースでは、コンピュータを用い、発展的な学習の問題に取り組ませるなどし、数学的な考え方を伸ばすようにする。
4年	・学習に意欲的に取り組み、課題に最後まで取り組み解決することができる児童が多い。 ・グループで協力して課題を解決していく教材の工夫などの必要がある。	・習熟度別少人数学習を行うことにより、一人ひとりの学習の理解や習熟に応じた指導を行う。 ・グループ学習を積極的に取り入れ、話し合ったり、教え合ったりすることで、友達を認め、自分の考えをさらに深める学習を行うようにする。	・習熟度別基礎コースでは、間違い直しをていねいに取り組み、力を付けさせるようにする。 ・習熟度別発展コースでは、応用問題作りに取り組ませ、また、友達の作った問題を解くことで、学習の理解を深めるようにする。
5年	・学習に集中して取り組めず、課題を最後までやり遂げられないことが多い児童がいる。 ・学習する際のルールを徹底させ、学習環境が整った中で学習に集中できるようにする必要がある。	・習熟度別少人数学習を行うことにより、一人ひとりの学習の理解や習熟に応じた指導を行う。 ・学習する際のルールを徹底させ、学習に集中させる。 ・スモールステップで基礎・基本の確認をし、成功体験を味わわせ、学習の楽しさを感じられるようにする。	・習熟度別基礎コースでは、形成的な評価を行い、弱点を克服できるようなドリル学習を行う。 ・習熟度別発展コースでは、発表ボードを用い、自分の考えをまとめ、整理して発表する学習を多く行い、数学的な考え方を伸ばすようにする。
6年	・既習の学習の習熟度の個人差が比較的大きく、基礎・基本を個別にていねいに指導することが必要な児童がいる 反面、発展的な課題にどんどん取り組める児童もいる。 ・一人ひとりが意欲を持って取り組み、習熟度に応じた課題を準備する必要がある。	・習熟度別少人数学習を行うことにより、一人ひとりの学習の理解や習熟に応じた指導を行う。 ・自分の考えをまとめ発表する学習を多く行い、多種多様な考えがあることを知り、互いの意見を尊重する態度を育て、筋道立てた考え方を身につけさせる。	・習熟度別基礎コースでは、基礎的な内容を繰り返し学習し、確実に身につけさせる。 ・習熟度別発展コースでは、発展的な課題を多数用意しておき、自ら選んで取り組ませることで、興味関心を高め、論理的な思考を深めるようにする。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

学年	学習状況及び指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	町探検を行い、見てきたことを、学習した地図の表記の仕方を使い、絵地図にまとめたり、見学した公共施設について、特徴をまとめて発表したりなど、体験を通して学習をしたり、学習したことの理解を深めたりしたが、図や表などの読み取りについては課題が残った。	引き続き、体験的な学習を通して、子どもたちの意欲的な学習を継続するとともに、様々な資料を読み取る学習についても力を入れていく。また、新聞作りなどの体験を通して、資料を発信する側にもなり、学習を深めていきたい。	身近な生活に結びつけて、自分とのつながりを通して知識を確かな物にしていけるようにする。また、毎日の家庭学習の中にも、地図や資料の読み取りの課題を入れ、理解を深めるようにする。
4年	体験を通して学んだことについては、よく理解している。表や地図、グラフなど資料を読み取る力に課題がある。資料を読み取り、それを基に自分の考えをもつことができるような力を育てていく。自分たちの生活と結びつけて考えていけるような教材を工夫する。	社会科見学や工場見学などの体験を通して学んだことや考えたことを、社会科新聞としてまとめたり、発表会を行って伝え合ったりして理解を深めていく。表や図、グラフなどの資料から何が、どう読み取れるか全体で繰り返ししていねいに学習し、読み取る力をつけていく。	自分たちの身近な生活とのかかわりを考えながら学習を進めることによって、興味・関心をもって意欲的に取り組むことができるようにする。地図帳やビデオなど興味をもって取り組めるような資料の活用を図る。自分たちが住む東京の特色や、伝統工芸への理解を深める。
5年	社会的事象への関心・意欲・態度や、知識・理解に関する領域については概ね理解できていたが、地形図の見方など、観察・資料活用の技能・表現に関する領域については理解が充分ではなく、課題が残っている。	教科書の資料やグラフから読み取れることを言葉で記述する場を積極的に設けていく。その際に、ただ数量の増減などを挙げるのではなく、他の時期と比べどのくらい増減したのか、といったようにできるだけ読み取ったことを詳しく記述させるようにする。	必要に応じて地形図など、既習事項の復習も行う。また、都道府県の理解の定着を図るため、各地域ごとにミニテストを週1回くらいのペースで行い、最終的には、47都道府県の位置と名称をきちんと理解できるように支援していく。
6年	以前に行った地域学習についての理解が低かったことから、様々な学習教材を用いるなど、理解を深くする必要があると思われる。また、様々な資料から考察する活動をさらに増やし、資料活用の技能や思考力を伸ばしていく必要があると思われる。	統計や図表などの資料から変化や現象をできるだけたくさん発見させ、そこから自分の考えを組み立てる活動を増やしていく。また、資料から自分なりの課題を見つけ、追究させる中で、社会的思考力を高めるようにする。	図表の読み取りや地図学習など、毎日の宿題の中でも取り入れていく。また、図表や統計、資料などから読み取る課題も取り上げ、理解を深めていけるようにする。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

学年	学習状況及び指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	実際に植物を育て観察したり、昆虫を育て観察する中で対象の色・形・大きさ・手触りなど詳しく読み取ったり、以前の状態と比較して考えるなどの力を育てることができたが、予想して実験をして考察するという学習についてはまだ行えていないので、これからの課題にして取り組む。	観察カードやワークシートで観察する際、必ず自分なりの考えを書くと共に、以前の状態や他の生物と比較してどのように変化したのかを記録させるようにする。また、実験を通して、予想し考察するなどの思考力を高められるようにする。	電気や磁石の単元では、実験を通して、思考力を高めるとともに、学習した内容を生かしたものづくりに取り組むことで、科学的な見方や考え方を深めていけるようにする。
4年	観察は好きな児童が多いが、その結果を以前の様子と比較したり、他の植物と比較したりして言葉で記録していくことは少なく、その時だけの記録になりがち。実験をすることは大好きなのだが、見通しをもって取り組み、結果から自分の考えをまとめることが課題。	観察する際に必ず以前と比べてその変化を記録し、自分の感じたことや思ったことも書き加えるよう指導する。実験の際には、課題から実験の方法を考えたり、結果を予想したり、お互いの考えを発表し合ったりして、意欲をもって取り組めるようにする。結果について考察する。	自分たちのまわりの生き物の様子について気温と関連づけて観察させたり、他の学年で育てている植物と比較して観察させたりして科学的な見方や考え方を育てる。実験については、予想を立て、実験し、結果についてまとめていくことを継続し、見通しをもって学習を深めていく。
5年	よく理解できてる単元と、そうでない単元の差が大きい。生物とその環境に関する領域について概ね理解できていたが、物質とエネルギーや、地球と宇宙に関する項目の理解については課題が残っている。	学習のパターンをきちんと押さえる。予想、実験、結果考察という流れを明確にする。また、根拠をふまえて予想を立てる場を意図的に設ける。ノートの取り方、板書についても、学習の流れと一致したものにするこことで、学習パターンを徹底させていく。	結果から考察を導き出す場面では、「～から・・・と考える」というように、子どもたち自身が言葉で説明し記述する時間を設ける。また、異なる実験結果や考察がでたときは、子どもたちの話し合いの時間をしっかりと確保し、学び合う場を積極的に活用していく。
6年	学習課題解決学習において、課題を発見し、実験方法を自分で考え、結果から考察する学習を行ってきたが十分に時間をとることができなかつたため、課題を自分の力で解決する力が十分に備わっていない。	課題発見から、解決、考察までの学習の流れを定着させ、児童自らの力で課題解決ができるよう、授業を組み立てていく。また、既習学習についても、復習を行い、より深い理解につなげる。	理解が十分でない学習内容については、補充実験を行ったり復習を行ったりすることで、定着を図る。また、単元の最後には新たに興味をもったことや深く調べたいことを追究する時間をできるだけとり、発展的な内容も学習できるようにする。